

こどもと健康

NO・143

2014・2・3

インフルエンザの流行、急拡大！

昨シーズンより2週間遅れて大阪府では年末最後の週になって流行の始まりとされる定点当たり1.0を超えて1.7となり、全国でも1.9と流行期に入りました。年が明けて12、13日の連休後に流行は急速に拡大し、1月20日からの第4週では全国平均で定点当たり24.8となり、前週より倍増しました。都道府県別では沖縄県54.1、大分県39.6、宮崎県37.9、と10県で警報レベルの30を超え、大阪府25.5、堺市30.8となっており、堺市では昨年のピークを早くも超えています。全国の衛生研究所で今シーズンに分離・検出されたウイルスはA香港型が44%、AH1pdm09(2009年に大流行した所謂新型)が33%、B型が23%となっていました。年が明けてからはAH1pdm09の報告が最多となっています。因みに、全国の衛生研究所で検出・分離されたAH1pdmは一昨年シーズン0.2%。昨シーズン2%でしたが、堺市医師会のインフルエンザ迅速把握事業報告ではこの週、A型が88%を占め、堺市衛生研究所の検出・分離例では76%がAH1pdmとなっています。AH1pdmは5年前に所謂新型として児童・生徒を中心に大流行しましたが、獲得した免疫が低下してきており、今後の流行には注意が必要です。その年特に、喘息を持つ子どもが呼吸困難となって入院するケースが多発しましたので、気をつけましょう。又、インフルエンザ脳炎・脳症が今年になって大阪府で3例の報告がありました。

尚、札幌市衛生研究所で6例のタミフル耐性(タミフルが効かない)AH1pdm09が報告されましたが、幸い、イナビルとリレンザは有効です。その後、全国の衛生研究所における遺伝子レベルの検査では、三重県等に引き続き大阪府でも1例が検出されましたが、未だ全国でも10例程度に過ぎません。流行の拡大につれ、堺市でも学級閉鎖が増加し、御池台小学校でも2クラスが学級閉鎖をしたのを始め、1月28日現在、学年閉鎖が5校6学年(南区3学年)、学級閉鎖が22校34クラス(南区10クラス)となっています。少なくとも今月一杯は流行が続くと思われますので、ワクチン接種をしても、感染には十分注意しましょう。特に、受験生は試験日が近づいてきましたので、なおさらです。

外出から帰ったらうがいと手洗いを、人混みは出来るだけ避けてマスクの着用、疲れすぎないように休養と睡眠、バランスが良い食事と運悪く罹ってしまったら咳エチケットを守り、しっかりマスクをして他人にうつさない気配りをしましょう。

休診のお知らせ

2月17日(月) 午前診を休診します。

鳥インフルエンザA（H7N9） 中国で再流行！

鳥インフルエンザAH5N1に続き、昨年から鳥インフルエンザAH7N9が中国で発生し、流行が拡大しています。今のところ、家禽を扱う人が罹患しているようですが、昨年末には限定的とは言え、ヒトーヒト感染例が見つかっています。年末から1月29日までに115名の感染が確認され、うち15名が死亡しています。1月29日までの1週間では28名（うち2名死亡）が報告され、今週中国は旧正月の祝日となる為、日本の正月と同じく帰省等でヒトの移動が活発となるので、拡大が懸念されます。特に、中国でもAH1pdm始め季節性インフルエンザが流行している時期でもあり、遺伝子の入れ替えでヒトーヒト感染をし易い鳥インフルエンザウイルスの発生が心配です。中国を旅行する際には、注意が必要です。

小児用肺炎球菌ワクチンの補助的追加接種！

昨年4月から定期接種となった小児用肺炎球菌ワクチンが11月から7価から13価ワクチンに強化されました。93種ある肺炎球菌のうちこれまでは7種でしたが、13種が入ったワクチンが接種できるようになったのです。1回でも7価ワクチンを接種した場合も、11月1日以降に接種する時には13価ワクチンを接種します。初回3回と追加接種の4回接種は変わりません。尚、既に7価の接種が終了した6歳未満の幼児も残りの6種の免疫をつける為、1回だけ任意接種（有料で12000円）を受けることができますので、ご相談下さい。

肺炎球菌はありふれた細菌ですが、乳幼児が罹ると髄膜炎、敗血症、肺炎等の重症肺炎球菌感染症となり、命にかかわることがあります。肺炎球菌は常在菌と言われ、保育所園児のノドを検査すると4か月児17%、7か月児28%、10か月児36%、1歳6か月児48%が保菌者であったというデータもあります。保菌者は無症状ですが、免疫力が低下すると、発病することがあります。7価の小児用肺炎球菌ワクチンが公費負担で接種が始まって3年目になります。ワクチンに含まれる7種による重症感染症は10分の1以下にまで減少しましたが、ワクチンに含まれないものは変化がありません。生後10か月までに半数が3歳までに80%が一度は保菌すると言われます。既に接種が完了していても集団生活をしている6歳未満児は1回接種（補助的追加接種といいます）を受けるようにしましょう。尚、高齢者に接種される成人用23価肺炎球菌ワクチンは全く別物ですので、小児には接種できません。

先天性風疹症候群の発生、続く！

一昨年から大都市を中心に流行した風疹の影響で平成24年秋から妊娠中に風疹に感染した妊婦から先天性風疹症候群の発生の報告が相次いだ。平成24年は4例の報告でしたが、平成25年には32例が報告され、秋以降は地方に拡大している。今年になっても東京都と福島県から2例が報告されており、なおしばらくは注意が必要です。例年、風疹は春から流行する傾向にあり、妊婦の方にはワクチン接種が出来ませんので、同居家族の方に風疹ワクチンを接種して風疹ウイルスを家庭に持ち込まないようにしてください。尚、来年度には風疹に罹患したか、を確認する抗体検査が公費で実施される予定になっていますが、秋以降になる可能性があります。